

♥♥♥♥♥ことばを育てる親の会北海道協議会 ♥♥♥♥♥HSK ♥♥♥♥♥

HSK

昭和48年1月13日第三種郵便物承認 HSK通巻第615号

(毎月10日発行) 2023年6月10日発行

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 福井 紀郎

会 報

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12

札幌市立中央小学校ことばの教室内

TEL011-241-2533 定価100円

♥♥♥♥♥2023. 6. 10♥♥♥ No. 182♥♥♥♥♥



変わりゆくカタチ

特定非営利活動法人
ことばを育てる親の会北海道協議会
会長 福井 紀郎

爽やかな春の日差し溢れる5月20日、札幌市の「かでの2.7」において、北海道教育庁学校教育局特別支援教育課の仙北谷逸生課長補佐、吉田卓郎主査、北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課の富加見昌孝課長補佐、北海道言語障害児教育研究協議会会長の千葉剛禎校長、事務局長の濱崎健教諭、そして本協議会の顧問の皆様のご列席をいただき令和5年度の総会を開催しました。

総会の内容については「総会報告」で紹介させていただくとして、新型コロナウイルスの感染拡大により令和元年度以来の対面による総会開催を無事に終えることが出来ましたことは、会員の皆様方のご理解、ご協力なしには成し得なかったことと感謝しております。久しぶりに行う対面での開催では「リモート」とは違った様々な事前準備があり、過去の記憶を辿りながら「踏襲すべきもの」、「見直すもの」、「慣例としていたが時流に即していないもの」として意見交換を行いながら、過去を知る役員も替わりつつある中で検討を重ね総会に挑みました。

リモートであれ対面であれ総会を運営する立場として、最終的な目的は「総会での決議」にあることは変わらないのですが、久しぶりの対面での総会を終えた今、その目的に至る過程には随分と大きな相違があるようにも感じられ課題が残ったようにも思われました。私は公私ともにリモートでの講演会、研修会、委員会等に参加する機会も多いのですが、便利な反面、リモートは本当に難しいと感じることが多くあります。単純に「聞く」ことだけにとどまるのであれば、リモートというのは広範な北海道という物理的な不利をカバーできるこれ以上ない有効な手段だと思います。しかしながら「伝える」、「わかり合う」ということに細部まで拘れば、リモートで考慮しなければならない注意点は多々あると思います。「ことば」を掲げて活動している団体だからこそ、細心の注意を払わなければならない部分です。我々にとって対面での活動が叶わなかった長い期間、コミュニケーションについて考える機会は多かったように思います。例えばその一つが、コミュニケーションを円滑に行うには何が大事なのかということです。顔の大部

分を覆うこととなったマスクにより、それまではさほど深く考えたことのなかった、「表情も、「伝える」ということに関しては重要な役割を果たしていた」ということを改めて認識することとなりました。「笑顔いっぱい」というフレーズは良く聞きますが、確認できなくなって初めて分かるありがたさだと痛感しました。伝えるということに関して、「ことば」の能力が不足する部分は様々な（表情や身振り手振りなどの）手段を用いて補完することも出来るということ、改めて認識させられたようにも思います。

リモートという手法が浸透したことにより、我々の活動の方法も大きく様変わりしました。ただ、リモートを「親の会」として効果的に活用するにはまだまだ多くの試みが必要だと感じていることも事実です。私がそう感じるのは、リモートという手法の優位性や特徴に由来するものだけではなく、実際に操作する「人間」との相性にも似たものが大きく作用しているからだと思っています。この会報にしてもそうですが、昔はガリ版で刷っていたものがワードプロセッサへと移行し、現在のようにパソコンで編集しプリントアウトした後に各地区へと郵送させていただいておりました。この方法の変化の際にもそれぞれの方法が得意であったり、不得意であった方が存在したはずで、また、会報の配付にしても郵送で行っていたものが、現在ではホームページによる配信となりました。ここでも郵送であれば作業を出来るけれども、ホームページへの配信作業となると対応できないといった方も存在してきます。リモートという便利な手法を手にした我々が考えなければならないのは、社会的に広く普及しているからといって「誰しもが使いこなせる」という前提で物事を考えてはいけないということだと思います。親の会に関わる様々な方々が、最も有効的に活用できるような運用の方法を見出すには更なる検討を重ねる必要があると思っています。



我々は親の会活動の長い歴史の中で、子どもたちを取り巻く環境を整えるべく行動を行ってきました。近年では特別支援教育制度の導入や、通級指導教室指導教員の配置定数化が行われ、最近、文部科学省ではすべての教員が複数年特別支援学級の担当を経験することという方針が打ち出されたところです。確かに、一昔前からすると子どもたちを取り巻く環境は充実していることに間違いはありません。しかしながら、少子化により確実に児童生徒数は減少しているのに（特別支援学級をはじめとした）支援を要する児童生徒数が増加の一途を辿るのはなぜなのでしょう。我々が求め続けてきた「教員の専門性の向上」は、我々が求める方向性と合致していたのでしょうか。支援の必要性の早期発見・早期療育に取り組んできましたが、中学校での通級指導教室設置数が不足しているため小中間の連携に支障を来す事例というも依然として見受けられます。本巻頭言の中で「リモート」について述べさせていただきましたが、制度や運用、技術の進展の流れが速くて成すべきことを見失いがちで、ともすれば要望どおりに「問題は解消された」とも誤認しかねないと危惧しております。今まで以上に速い流れで「変わりゆくカタチ」に、物事の本質を見失わない資質を備えたいところです。

最後になりますが会員の皆様、そして日頃より、子どもたちの健やかな成長に情熱を持って接していただいている先生方並びに関係者の皆様が、ご家族健康でお過ごしくださるようご祈念申し上げ、年度初めのご挨拶、そして会報第 182 号の巻頭言とさせていただきます。

令和5年度 定期総会報告



令和5年5月20日(土)、札幌市「かでの2・7」を会場に令和5年度の定期総会が開催されました。会長をはじめ、来賓の方々、顧問の方々、全道各地より約25名の参加者が会場へ、約12名の参加者がZOOMにより集い、熱心な審議が行われました。石川俊男理事の開会のことばの後、福井紀郎会長より来賓や顧問の方々の紹介に続き、次のような挨拶がありました。

「新型コロナウイルス感染症の蔓延防止対策ということもあり、平成31年度以降会場に集って対面での総会が実施できずにいたが、こうして来賓の皆様方や会員の皆様と集うことができ嬉しく思う。また、私は以前から広範な北海道においては物理的に総会に集うことが難しい会員の方もいらっしゃることから、Webなどを活用してより多くの方が参加できるよう望んでいたところ、図らずもコロナによりリモートという手法が広まり、新しい試みを後押ししてくれ



るような形となった。今回の総会では、従来からの対面型に加え、全道各地からの参加者と会場をZOOMで結ぶ形を併用したハイブリッド型の開催で望むこととした。初めての試みでもあるので何らかの不備はあるかもしれないが、それも含めて活発な意見交換をいただけたらと思う。」

続いてご来賓の方々のご挨拶をいただきました。後日、ご挨拶を文面でもお送りいただきましたので、5ページから7ページに掲載させていただきます。

議事の進行に先立ち、議長に北広島市ことばを育てる親の会から、好田奈々子先生が選出されました。議事録署名人には北見地区ことばを育てる親の会の佐々木真由美会長と札幌市ことばを育てる親の会の菅原有美さんが委嘱されました。活動地区34地区中、出席14地区、議長一任が15地区、合計29地区で、過半数を超えているので総会は成立し、開会されました。

議事(1)「令和4年度 事業・活動経過報告」は提案通り承認され、対面での会議が開けない中、会の運営を円滑に進めるべくZOOMを用いて2ヶ月に1度というペースで理事会を開催し検討を進めてきたことも紹介されました。議事(2)「令和4年度 活動決算報告」・議事(3)「監査報告」では、活動地区数が減少し会費収入も減少する中で、ZOOMの活用により旅費を軽減したり、事務経費の節約に努めてきたことが科目毎に説明されました。議事(4)「令和5年度 事業・活動計画」について、基本的な方針に大きな変更はないものの、多くの会員の方と交流する機会を増やし、かつ、経費の削減も図るためWebの活用を明文化したり、各理事がそれぞれの活動の中で親の会のPRや要望活動を主体的に行うことを付記したり、現在欠員が続いている理事の選考方法についても過去からの運用を見直す

検討を始めることなどの説明がありました。議事(5)「令和5年度 活動予算案」について、予算が減少する中ではあるが今後は対面での活動の増加が想定されることから、それに伴う旅費等への配分の見直しを進めた旨の説明がありました。また会員の中から「会員一人あたりの負担額がおお(高)すぎる」との声があることに対して、福井会長から「現在の会費の算出は会員一人あたりの定額と、居住地域の人口をベースとした人口割の2種類の積算により算出されており、人口の多い都市部で会員が少ない場合は人口割の算出額が負担となり結果として会員一人あたりの(北海道協議会への)負担金が高額になるという問題がある。今年度の会員数報告においても、仮計算の段階で会員一人あたり1,300円を超える負担金となる地区もある。親の会が「どこにいても同じ支援を受けられるように」との思いで活動していることを考えても、あまりに負担金の乖離が大きい。ただ、会員数が増えれば人口割による負担は減少するものなので、一時の会員数の増減に拘りすぎて会費規定を見直すことは、解決策としては好ましくないと考えている。そこで、今年度の総会において会費規定を見直すことはせずに、会員一人あたりの負担金上限額を定めることで過度な負担とならないよう対処することを提案したい。具体的には会員一人あたり500円を負担金の上限額としたい。ちなみに、この上限額を導入した場合と導入しなかった場合とでは、会費収入総額での差額は約23,000円となる。年度毎に会員一人あたりの負担金が大きく変動する可能性はどの地区にもありうることなので、この提案に関する承認をいただきたい」との説明があり承認された。議事(6)「今後の全道大会の在り方」について、理事会で検討を重ねてきたものの、対面、ZOOM、YouTube 配信方式など様々な方法に一長一短があり、多くの会員の皆様にとって最も有用な手法となるよう未だ検討を重ねているところとの説明がありました。議事(7)「役員(副会長)」について、昨年の総会では提案準備が整わず、総会後の理事会で選任し会報でも紹介させていただいたところ。当協議会の定款上、副会長は総会での承認ではなく指名となるため、本総会で改めて指名を行うことを報告させていただきたいとの説明がありました。議事(8)「相談役の委嘱」について、昨年の総会での退任時には提案準備が整わなかったが長年の経験から貴重な見識を持つ谷口大朗前副会長と谷口恵美子前専務理事に相談役を委嘱すべく、本総会で承認をいただきたいとの説明があり承認されました。議事(9)「事務局員の委嘱」について、当協議会の定款上、教室設置校の担当者である事務局員は任期が1年とされているため、引き続き委嘱を行うため本総会で承認をいただきたいとの説明があり承認されました。議事(9)「その他」では、当協議会の事務所は事務局員宅としているため、退任した専務理事宅が事務所となっていたが、齋藤副会長宅を事務所とすべく変更を行うとの報告がありました。また、網走から選出されていた大類理事が退任し、後任としての残任期間を網走の薄田知春さんが就任するとの報告が行われました。

初めてのハイブリッド方式での総会開催となりましたが、参加された皆様のご協力もあり予定時間を超過することなく、石川理事の閉会のことばで総会は終了しました。



ご来賓の方々のご挨拶

ご挨拶



北海道教育庁学校教育局特別支援教育課
課長補佐 仙北谷 逸 生

令和5年度特定非営利活動法人ことばを育てる親の会北海道協議会定期総会の開会に当たり、北海道教育委員会といたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

貴会におかれましては、日頃から、障がいのある子どもの教育や福祉等の振興・充実に對しまして、多大なる御貢献をいただいておりますことに、心から敬意を表します。

特に、言葉に障がいのある子どもに対する教育の充実のため、昭和38年からことばの教室の設置を目指した長年の活動及び子どもの多種多様なニーズに応える活動に取り組まれてきたことに重ねて敬意を表する次第です。

さて、近年の国の動きであります、令和3年1月に「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）、また、令和4年3月に「特別支援教育を担う教師の養成のあり方等に関する検討会議報告」、さらには、令和5年3月に「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告」が示されるなど、コロナ禍の3年間は、特別支援教育にとって平成19年頃に匹敵する大きな転換の時期であったと感じております。

道教委においても、「北海道教育推進計画」の改定に併せて、本年度から令和9年度までの本道における特別支援教育推進の基本的な考えである「特別支援教育に関する基本方針」を策定したところです。

方針では、特別支援学級や通級指導教室における担当教員の専門性向上や「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用した関係者による一貫した指導や支援について示しております。

特別支援学級及び通級指導教室の児童生徒数は、この10年で共に約2倍となるなど、特別支援教育に関するニーズが高まっており、今後も、研修会等の実施により担当教員の専門性向上を図るほか、特別支援学校教諭免許状の保有率向上、経験の浅い教員へのサポート体制の整備、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づく適切な指導及び支援の充実に向け、引き続き推進してまいります。

本協議会を通して、保護者の皆様と教員が、言葉に障がいのある子どもの教育について意見交換をしたり、情報を共有したりすることは、指導の充実を図るうえで大変重要であると捉えており、貴会のより一層の発展を御期待申し上げます。

結びに、本協議会の皆様には、今後も、各地域における特別支援教育の推進に係る取組に積極的に参画していただくなど、本道の特別支援教育の推進に対して、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度 ことばを育てる親の会北海道協議会 定期総会 ご挨拶



北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
課長補佐 富加見昌孝

「令和5年度 ことばを育てる親の会北海道協議会 定期総会」が、全道各地の会員の皆様のご参加のもと、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

「ことばを育てる親の会北海道協議会」の皆様には、ことばやきこえなどに心配のあるお子さんの教育や福祉の向上のため、子育て支援セミナーや親子キャンプの実施などに積極的に取り組まれていることに対しまして、心から敬意を表します。

また、福井会長をはじめ、役員の皆様、会員の皆様には、日頃より、本道の障がい福祉行政の推進に御理解、御協力をいただいておりますことをこの場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、聴覚に障がいのあるお子さんについては、早期に聞こえにくさに気づき、ことばや知識を学ぶための適切な支援を行うことが重要であることから、北海道では、北海道教育委員会と連携して、聴覚に障がいのあるお子さんへの支援に携わる市町村子ども発達支援センター等の関係職員に対して難聴に関する基礎的な事項を伝達する研修や、個々のケースに応じた対応能力の向上を図るための研修を各地域にて実施しております。

今後とも、聴覚に障がいのあるお子さんの早期発見及び適切な早期療育について、地域における様々な機関や関係団体の皆様との協働により取り組んでまいりますので、引き続き、皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本日の総会が、皆様にとって実り多いものとなることを御期待申し上げるとともに、「ことばを育てる親の会北海道協議会」のますますのご発展と、本日お集まりの皆様のご健勝をお祈り申し上げ、挨拶いたします。

ご挨拶



北海道言語障害児教育研究協議会
会長 千葉 剛禎
(札幌市立篠路小学校長)

日頃より、本会の活動に対しまして、温かいご理解とご支援、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、道言協は、北海道におけることばやきこえの教室の教育や療育を充実させるため、会員の専門性を高め、より充実した対応を進める研究組織として、また、通級指導教室や療育機関、個別指導の中心的な研究組織として、さらには、通級指導の成果や課題を発信していく組織として、1968年に発足し

た、50年以上の歴史がある会です。

昨年度は、第51回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会北海道大会を兼ね、第55回北海道言語障害児教育研究大会を千歳市において開催し、実践ならびに研究の交流を深めました。

そして今年度は、岩見沢市において、オンデマンド配信と参会による分科会のハイブリッドで第56回大会を予定しております。

最近の特別支援教育の情勢としては、少子化により学齢期の全体の児童生徒の数が減少していますが、特別支援教育に関する理解や認識の高まりや、障がいのある子どもの就学先決定の仕組みに関する制度の改正等により、通常の学級に在籍しながら通級による指導を受ける児童生徒数及び特別支援学級や特別支援学校に在籍する児童生徒等の数は増加しています。

これまでも特別な支援を必要とする児童生徒に対する指導体制は段階的に充実してきていますが、広域・分散型である本道においては、一人一人の教育的ニーズに的確に応えらるとともに、可能な限り身近な場所で専門性の高い教育を受けられるよう、教育環境の整備や教育内容の充実、指導の質の向上が求められています。

また、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒等への個別の教育支援計画の作成・活用が十分ではないことから、個別の教育支援計画の作成・活用をより一層推進することが必要であり、乳幼児期から学齢期、社会参加に至るまでの、切れ目のない支援を受けられる支援体制や連続のある学び場の一層の充実が求められています。

しかし、学校現場においては、教員定数に対する欠員がここ数年続いており、また、経験の少ない若い職員の比率も多く、人材の育成という課題も抱えている状況にあります。

そうした中において、今までも、そしてこれからも、お子さんの健やかな成長をめざした指導には、私たち教職員と保護者の皆さんとの情報共有と連携が重要であり、不可欠なものであると強く感じております。

今後とも、道言協の活動に対しまして、変わらぬ、ご理解とご協力をお願いするとともに、ことばを育てる親の会北海道協議会の益々の発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



意見交換会報告

かでる27

11:20
~12:30

総会終了後、福井会長の進行で「意見交換会」が開催されました。人と交わる活動が制限されていた3年間、どうしていたのだろう、これからどうしたらよいのか、そんな声を寄せ合う時間となりました。

会場参加の北見地区の佐々木さんから「親同士のつながりも会員さんも減ってしまった。先生の方からも声をかけることが難しかった。今年度は親の会のことを知ってもらうために顔合わせ会として縁日を計画した。行事は4年ぶり。“楽しかった”という声が聞かれた。北見は教育局に相談をして、今年度中学

校2校に教室が開設された」という報告で始まりました。会員歴 13 年という秋本さんからは、千歳地区では小学校後の支援の場を作ってもらおうよう働きかけているそうです。マンモス校にことばの教室ができ、市内 2 校目の設置となった。会員数も大所帯となり親の会があり方について札幌を参考にしたいという意見が出ました。札幌地区からは、通級すると加入という形をとっていないので最近では会員数が激減し、コロナ禍では先生たちともコミュニケーションをとれない状態が続いている。今年度の総会は市教委の先生の講演を企画し会員外の方にも声かけをしているというお話でした。

また、石狩管内 6 地区は以前から交流会をしていましたが、今は 6 地区での行事はできず、これから各地区の活動を盛り上げていこうという話になっている、と北広島地区より報告がありました。

WEB 参加の室蘭地区からは、今年教室が新しく開設されたが、先生は一人。まずはレクの復活から活動を始めようと思っているとのことでした。道内で発達障害の通級指導教室の開設が増えてきている中で、親の会会員の加入についての話題になりました。札幌地区からは「まなびの教室」だから親の会の会員になれないことはなく、ことばの教室からまなびの教室に変更になった場合も会員として活動している、室蘭地区からは「どちらの会にも入っている人がいる」という意見がありました。音更地区からは、



十勝管内では教員数は加配になっている所が増えている。地区の状況はコロナで中止ということが続いた。段階的に保護者交流会などを再開しようと思っているとのことでした。土別地区もコロナ禍で親の会で行事のあったことを知らなかった人もいる。夏の行事として体を動かさず感覚統合のようなことができたらと話しているとのことでした。

顧問の跡部先生からは教室のない時代に千葉県で下宿をしながら指導をうけた初代谷本会長さんの会発足当時の活動に思いを馳せことばの問題はどの障害にとっても基本的であること、ことばの教室は何をすところなのか、親の会はなぜやるのかを明確にしたらよいのでは、というお話がありました。土谷前全国会長からは、社会の理解があれば、親の会がなくなるのが理想かもしれないが、そこまで至っていない。支え合うため、つながり合うため、我が子中心ではあるが、広がっていくことが大切と先輩の親としての視線でお話しされました。

ことばの教室やきこえの教室の先生たちの研究団体である道言協事務局長の濱崎先生も参加され、通級指導教室での経験年数が 5 年以内の先生の数 が 50% という調査結果があり、道言協の中で経験の浅い先生たちを対象に基礎的な研修のサポートを行っている、という実情をお聞きしました。

久しぶりの対面と WEB での意見交換会の 1 時間余はとても短く感じ、今後の親の会のあり方の課題を感じながら、各地区での試行錯誤の取り組みに勇気を感じたひとときでした。

(文責 太田 真知子)

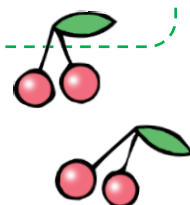


令和5年度 特定非営利活動法人
ことばを育てる親の会北海道協議会 役員名簿



顧問	跡部敏之	土谷さとり	高井祐二	坂本 武	中山忠道
	福光哲夫				
相談役	山根 勸	谷口恵美子	谷口大朗		
会長	福井紀郎(幕別)				
副会長	齋藤寛子(札幌)				
専務理事	(未定)				
理事	山本光子(栗山)	齋藤寛子(札幌)	石川俊男(札幌)		
	太田真知子(札幌)	福島美恵子(札幌)	薄田知春(網走)		
監事	菅原有美	秋本ひとみ			
事務局長	(未定)				
事務局次長	丸山大樹(札幌 中央小)				
事務局員	沓澤真紀子(札幌 会計)	宮本 茂(札幌)			
	佐藤美紀(札幌 清田小)	竹森陽子(札幌 清田小)			
	市川すみれ(札幌 前田小)	森田 希(札幌 前田小)			
	赤坂 玲(札幌 中央小)				

会報180号でお知らせしておりましたが、齋藤寛子さんが総会で副会長に指名されました。
谷口大朗さん、谷口恵美子さんが相談役に委嘱されました。
大類典子さんが退任され、後任として薄田知春さんが就任しました。



新理事さんよりご挨拶

網走市ことばを育てる親の会

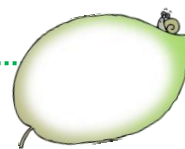
薄田 知春

このたび『網走市ことばを育てる親の会』から『NPO 法人 ことばを育てる親の会 北海道協議会』の理事に就任しました、薄田知春です。よろしくお願い致します。

私は、中3の息子と小6の娘がおります。娘が小学2年生から、ことばの教室に通わせて頂いております。初めは、娘がどんな特性を持っているのか、何に困っているのかが理解が出来ず、悩んでいた時期もありました。ことばの教室に通う様になり、先生方にアドバイスを頂くことで、娘の苦手、得意な事、理解に繋がり、ご支援をして頂きながらも、今は楽しく子育てをする事ができております。

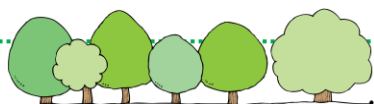
道親の会の事は分からない事が多く、皆様にご迷惑をお掛けする事も多々あるかと思いますが、精一杯努めさせていただきますので、ご指導の程よろしくお願い致します。

理事会報告



3月25日に第80回理事会、4月15日に第81回理事会が行われました。

- ・定期総会に向けて、今年度の事業計画を中心に、総会議案の検討などを行いました。
- ・事務所の所在地について確認を行いました。(連絡は従来通り、札幌市立中央小学校ことばの教室をお願いします。)
- ・地区分担金について、地区によって、会員一人当たりの負担が322円から1300円と開きがあるため、会費設定の見直しが行われました(総会での報告通り、各地区一人当たり500円を上限とすることが決まりました)。
- ・トドネーション事業対応の完了についての報告がありました。



特別支援教育研修会のご案内

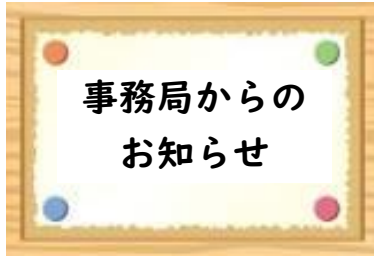
NPO法人ことばを育てる親の会北海道協議会と北海道言語障害児教育研究協議会の共催により、下記研修会を開催します。期間内、何度でも視聴できます。この機会にご家庭や教室で、子どもの心とことばを育てることをみつめ考えてみたいですね。ぜひご参加ください。

日 時	令和5年7月19日(水)～8月9日(水)
参加方法	YouTube(録画)配信
内 容	講演 「ことばの教室の専門性を考える」 ～ことばと心を育むという事～
講 師	西田 立郎 先生(言語聴覚士)
参加費	無料
申込方法	下のQRコードをスマートフォンなどの機器から読み取り、グーグルフォームより申し込みをお願いします。 読み込めなかった場合は、赤平市立赤平小学校 吉田 忍先生へメールでご連絡ください。

E-mail dogenkyo.kensyu@gmail.com

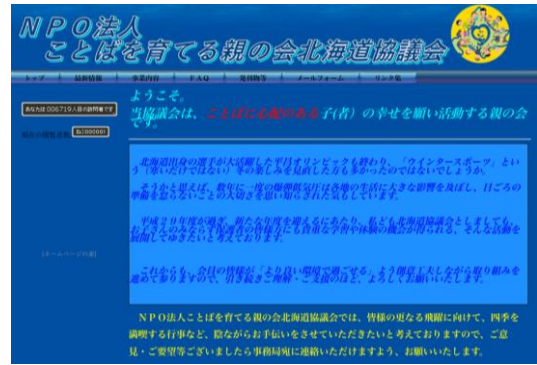
申し込みの締め切りは7月10日(月)です。





(ホームページ案内)

北海道協議会では、ホームページでも
いろいろな情報をアップしています。
どうぞご覧ください。



URL:[http:// www7b.biglobe.ne.jp/~do-gengo/index.html](http://www7b.biglobe.ne.jp/~do-gengo/index.html)

○親の会の事務局連絡校は下記のとおりです。お問い合わせは下記までお願いします

〒060-0041 北海道札幌市中央区大通東 6-1 2

中央小学校ことばの教室内

電話(直通) 011-241-2533

○地区分担金の送金先は次の通りです。総会資料に同封した振込票をお使いください。

(ゆうちょ銀行の ATM を利用して、通帳またはカードで振り込む場合のみ手数料が無料となります。現金による振込等の場合は手数料が発生しますので、ご負担をお願いいたします)

郵便振替	口座番号 02790-5-□□44186 加入者名 NPO法人ことばを育てる親の会
郵便貯金 口座振込み	記号 19030 番号 32430171 口座名 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会
銀行	北洋銀行 北7条 支店(店番 312) 口座番号 3527965 受取人 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会 会長 福井 紀郎



HSK 会報 昭和48年1月13日第三種郵便物承認(毎月10日発行)

2023年6月10日会報182号(HSK通巻615号)

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 福井 紀郎 定価 100円(会員分は会費に含む)

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東 6-1 2 札幌市立中央小学校ことばの教室内 Tel.011-241-2533